

作物別pH/ECの適正值と対策

- pHは作物によって適正值が異なります。表でチェックしましょう。
- EC値は耐性のある作物もありますが、なるべく適正值に合わせましょう。

作物の適正pH

pH

土壌の酸性度

〈6.5～7.0〉

大麦・ホウレンソウ・イチジク

〈5.9～7.0〉

小麦・エンドウ・トマト・キャベツ
ダイコン・アスパラガス・ブドウ
アズキ・カーネーション

〈5.9～6.6〉

サトイモ・大豆・レタス・ナス・キュウリ
カボチャ・ネギ・ブロッコリー・ピーマン
ハクサイ・小松菜・シュンギク・ショウガ
梨・柿・柚子・菊

〈5.4～6.4〉

稲・ライ麦・イチゴ・梅・リンゴ・落花生
カブ・ゴボウ・タマネギ・ニンジン
ウメ・リンゴ

〈5.0～5.5〉

サツマイモ・ソバ・オカボ
ヤマイモ・モモ・ミカン

〈4.8～5.7〉

バレイショ

〈4.5～5.7〉

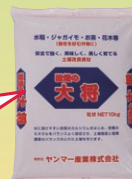
ブルーベリー・茶
ツツジ・シャクナゲ

pH
8.5
8.0
7.5
7.0
6.5
6.0
5.5
5.0
4.5
4.0

カルシウムが多い

- 硫酸など、硫酸系肥料を使用。
- ピートモスや硫黄華などでpHを下げる。

pHが高い場合は、
田畑の大将を
施用しましょう。



肥料不足

- 適正施肥。

肥料不足

- 堆肥など有機物肥料と化学肥料をしっかりと施用。
- 石灰資材施用。



アンモニア態窒素が多い

- 石灰資材の使用を中止。
- 生理的酸性肥料を使用。

適正範囲

pH: 5.5～7.0
EC: 0.4～1.0

※pHは作物により適正範囲が異なります。
※ECは栽培中のめやすの数値です。

肥料過多

- クリーニングクロップや湛水による除塩。
- 無肥料栽培。
- ゼオライトなど土壌改良資材を施用。
- プラウなどで天地返しを行う。

硝酸態窒素が多い

- クリーニングクロップで除塩。
- 減肥、有機質肥料施用、ECを高めない肥料を施用。



硝酸態窒素の割合が高い

- 石灰資材施用。
- 適正施肥。

pHが低い場合は、
田畑の大将を
施用しましょう。



窒素肥料が過剰

- 多かん水栽培。
- クリーニングクロップや湛水による除塩。
- 養分の少ない堆肥を施用。

ECに対する作物の耐性

※黒ボク土・沖積土の場合は基準値の3/4、砂土は1/2を基準値のめやすとする。

〈0.0～0.4〉

キュウリ
ソラマメ
インゲン

〈0.4～0.8〉

イチゴ・タマネギ・ナシ
レタス・リンゴ・タバコ
モモ・オレンジ・レモン
プラム・アズキ

〈0.8～1.5〉

稲・小麦・ライ麦・大豆・ネギ
バレイショ・ブロッコリー
ブドウ・キャベツ・ニンジン
トマト・ナス・サツマイモ
カボチャ

〈1.5以上〉

大麦・大根・ハクサイ
ホウレンソウ・アスパラガス
イタリアンライグラス・ナタネ

EC
電気伝導度
(肥料養分量のめやす)

(栽培中)
EC(mS/cm)

こんなお困りごとはありませんか？－病害編－

ほ場別
土づくり読本
水田や転換畑など、
土づくりの方法を
ほ場別にご紹介！



高温障害・窒素不足が疑われます。

- ①作土が浅い... 水稻の適正な作土=15~20cm程度。
- ②ケイ酸不足... 水稻は一作で100kg/10aものケイ酸を吸収しますので、地域によっては不足してしまいます。
- ③窒素不足... 食味向上のため、また倒伏しないようにするため、窒素を減肥しすぎていませんか？

①深耕する

作土を深くすることで、根張りをしっかりとさせましょう。

②ケイ酸資材の投入

土壌診断を行い、ケイ酸が不足している場合は、ケイ酸資材の投入や、モミガラを施用を検討しましょう。

③窒素不足

土壌診断を行い、適正な施肥を行いましょう。また、堆肥を徐々に施用し地力を高めましょう。



pHが高くなっていませんか？排水は良好ですか？ じゃがいもそうか病が疑われます。

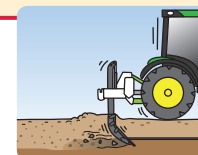
石灰資材を投入していませんか？
pHが高いと、そうか病の原因となる菌が繁殖しやすい環境になります。

pHの測定を行いましょう

pHが6以上の場合は、石灰資材(苦土石灰など)の施用は避け、pHを低く保ちましょう。

推奨資材:田畑の大将(赤)

また、検土杖で耕盤の位置を確認しましょう。耕盤ができていると、表面上乾いてみえても、地下の浅い位置で水が停滞している場合があります。



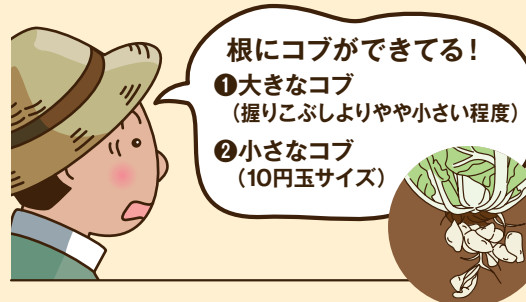
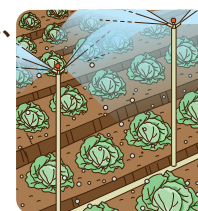
養分バランスの崩れや過乾燥による、 尻腐れ病、ふち腐れ病が疑われます。

窒素過剰・過乾燥による石灰欠乏。

窒素が過剰にあると、石灰の吸収が妨げられ、欠乏症になります。

また、石灰は水に乗って植物の全身に運ばれるため、灌水を少なくすぎると、石灰欠乏を起こす場合があります。

かん水の回数を少し増やしてみましょう。



ネコブ病、もしくはネコブセンチュウの被害 ではありませんか？

- ①ネコブ病菌(アブラナ科)... pHが低い・排水が悪い。
- ②ネコブセンチュウによるもの(アブラナ科・ナス科など)... 微生物バランスの崩れ・連作・有機物不足。

①pHを上げる

- ・pH7.2以上で、極端に発生が抑制されます。
- ・明きょをつくり表面排水を促したり、サブソイラ等で耕盤を破碎し、地下排水を促して排水対策をしましょう。

②有機物を投入し、微生物バランスを整える

- ・緑肥作物を栽培し、すき込むことも有効です。

